

各人は自分のために……

……われわれのひとりひとりが個々ばらばらに考え、行動してはならない。なぜなら、それは破滅だからである。われわれは、この志向とたたかい、資本主義的私的経営が、市場めあての仕事の制度がわれわれすべてのうちに、幾百万の勤労者のうちにのこしたこれらの習慣——私は売ろう、もうけよう、私がよけいかせげばかせぐほど、それだけ私は飢えずにすみ、他の人間がそれだけよけいに飢えるであろう、という——と、たたかわなければならない。これこそ、国に食料品がたくさんあるときにさえ、大衆を飢えさせていた私的所有の呪われた遺産である。この私的所有のもとでは、わずかな少数者が、富につけ貧困につけ富んでいった一方、人民は困窮し、戦争で死んでいったのである。同志諸君、これがわれわれの食糧政策の状態である。これが、食料品がたりないところで、いわゆる自由商業の方向にすこしでも歩みをすすめると、法外な投機がおこる、と述べる経済法則である。だから、これについてのあらゆるおしゃべり、そういうおしゃべりを支持しようとするあらゆる試みは、最大の害悪をもたらすものであり、社会主義建設——いま食糧人民委員部が、資本主義と「各人は自分のために、神だけが万人のために」という古い小ブルジョア的・有産者的習慣とがわれわれにのこした幾百万人の投機者とたたかいながら、信じられないほどの困難のなかで実現しているその社会主義建設からの墮落、一步後退をあらわすのである。

第28巻『全ロシア中央執行委員会、モスクワ・ソヴェト、労働組合
全ロシア大会の合同会議での演説』P425 1919. 1. 17

旧資本主義社会のいとうべき準則、われわれがこの社会からうけついで準則、われわれのだれもが多かれすくなかれ感染し、墮落させられている準則、「各人は自分のために、神だけが万人のために」という準則に新たな打撃をくわえるために、できるだけ広い大衆をくりかえし立ちあがらせよう。なによりもわれわれを窒息させ、おさえつけ、傷つけ、くるしめ、だめにしているのは、汚らわしい、血まみれの略奪的資本主義のこの遺産なのである。この遺産から一挙にのがれることはできない、それとのたゆみない闘争が必要である、それにたいして、一度や二度ではなく、なんどもなんども新たな十字軍を布告し遂行しなければならない。

第28巻『すべてを食料調達活動と輸送活動に傾注せよ！』P475
『ブラウダ』第19号、1919年1月28日